

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)		分野・領域	項目数	「できている」項目数 外部評価
<p>車の交通量も少ない新興住宅地に建てられ、公園が真向いにある。管理者は「環境に恵まれており、地域の方達と交流を深め、ご理解いただくため取り組んでいく。」と話している。又、台所で盛り付けしながら男性入居者が「これは女の仕事だ」といいながらも励んでいる姿は何とも微笑ましい。居室内でテレビを見ている方、リビングで仲間と寛いでいる方、散歩、買い物に出掛ける方と、自由な暮らしへの支援がなされ、職員は見守りの目を向け、穏やかに声掛けしている。又、管理者は間もなく4年目に入るホームへの想いとして「認知症ケアへの不足部分を更に補って職員と一緒に勉強し直し、質の向上に向けて取り組みたいし、もっと地域に溶けこみ力もお借りしていきたい」とも話しているので大いに期待したい。</p>		I 運営理念		
		① 運営理念	4	3
<p>グループホームの理念、役割を地域の皆さんに理解していただくための、継続的、地道な働き掛けが少し不足していると感じた。企業への町内会組織としての協力取り組みに理解が得られていない面もあり、苦勞されているが、運営推進会議の構成員として、市町村の担当者に次回から出席してもらい、行政からの後押しも願いながら、取り組んでいただきたい。</p>		II 生活空間作り		
		② 家庭的な生活環境づくり	4	4
<p>要改善点は特になし(現状の維持、そして更なる充実が期待される) 居室内は収納部が広く、整然として清潔である。家族の協力をもらいながら一人ひとりが自分に必要な物を持ち込み、居室でテレビを観ながら自由に過ごしている。持ち込み品について不十分な入居者も若干居られるが、本人の意向を大切にしながら家族にも働きかけていくとこのことで期待したい。</p>		③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり		
		6	6	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		III ケアサービス		
		④ ケアマネジメント	7	7
<p>ホーム独自の「たより」の発行は前回も要改善事項であり、市町村担当者への働きかけ、介護教室など事業の受託なども不足がみられる。取り組みへの意欲は十分なので努力していただきたい。地域にとっての良き隣人として、住民の皆さんに気軽に入居してもらおうための具体的方策も全員で工夫し、取り組んでいただきたい。又、入居者の病院への受診は殆ど職員が付き添い、薬ももらってきているが、ボランティア、家族にも協力をお願いするなど工夫していただきたい。現管理者や2人の介護計画作成担当者はそれぞれその職について日は浅いが、協働し熱心にホームの質の向上に向けて取り組んでいるので、今後に期待したい。</p>		⑤ 介護の基本の実行		
		7	5	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		⑥ 日常生活行為の支援		
		8	7	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		⑦ 生活支援		
		2	2	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		⑧ 医療・健康支援		
		9	8	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		⑨ 地域生活		
		1	1	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		⑩ 家族との交流支援		
		1	1	
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		IV 運営体制		
		⑪ 内部の運営体制	11	11
		⑫ 情報・相談・苦情	1	1
		⑬ ホームと家族との交流	3	2
<p>職員も入居者と食事を楽しみながら、さりげない支援に取り組んでいただきたい。職員の食費負担との兼ねあいもあるようだが、一緒に食事している職員は少ないので、グループホームで一緒に食事をとることの意味も皆で話し合って頂きたい。管理者は今後業務改善に取り組み、一緒に食事を楽しむ環境づくりを行っていきたくと話しているので期待したい。また、開設して4年目になるこのホームでの課題として、入居者に対する職員の言葉使い、声かけや、ゆったりとした態度について少し懸念を抱いており、認知症ケアについて全員で勉強し直し、ケアへの足りない部分を補っていきたくとしている。</p>		⑭ ホームと地域との交流		
		4	2	

2. 評価報告書

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			毎朝のミーティング時に勤務者全員で唱和することで理念を共有しつつ、全体会議、ユニット会議で具体的な目標、方針を職員に伝えている。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			ユニット毎の玄関に掲示しており、入居者、家族にも分かりやすく説明している。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			入居契約時に入居者や家族に説明し、同意も得ている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)		○		地域への広報、啓発手段としてのホーム独自の「便り」など未発行であり、運営推進会議での記録の公表も不十分である。	運営推進会議の記録など地域に公表し、ホームの様子、状況など地域の方へ情報を発信することで理解が深まることを期待したい。
	運営理念 4項目中 計	3	1	0		
	II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			ホーム玄関の壁面に木製の大きな表札が掲げてあり、色調も周囲の住宅にとけこんでいる。駐車スペースも広く季節毎に草花も植えられ、開放的である。	
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			共用の生活空間に使用されている調度、設備は、一般家庭にみられる入居者にも馴染みあるものであり、装飾品も程よい。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			リビングや小上がりの和室、リビングから外に続くウッドデッキなど、パブリックスペースもあり、それぞれに使用されている。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			ベッド、布団、タンス、物入れ、家具、テレビ、ラジオなども自由に持ち込み生活している。一律にリビングで過ごすのではなく居室でテレビを見たり、自由に生活している。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			玄関、廊下、トイレ内への手すりの設置、浴室内の滑り止めなど必要に合わせて工夫され、安全な暮らしへの配慮がある。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			各居室には色違いののれんを下げたり、造花を使って区別し目印としている。現在場所間違いによる混乱はみられないが、トイレの床面、戸には同じ色紙を貼って認識への工夫を行なっている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			リビングなど共用スペースの光の強さは適切であり、職員の声のトーンもほどよい。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気よどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			窓が大きく風通しのよい作りである。日中必要の都度換気し、ホーム内に臭気や空気よどみは感じられない。天気、温度、湿度に配慮し管理している。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			大きな文字、数字のカレンダー、時計も居室リビングに目の高さで設置してある。尚、時計は一部見え難い角度もあり、反対側にもあれば更によい。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			園芸用具、ほうき、裁縫道具など用意している。強制にならないよう声がけはしている。	
心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			月に1度定期的にカンファレンスを行ない、一人ひとりに合った本人に今必要なケアプランを作成している。更に充実に向けて多くの意見もとりにれたケアプラン作成を期待したい。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			ケアプランの作成時には、日常的に話し合われている職員の意見や気づきを、介護計画作成担当者がとりまとめ、再度検討し作成したプランを全員が共有し、毎日のケアにつなげている。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			家族の訪問時や電話で積極的に意見、希望を聞き、入居者の現状も話し合いながら作成し、ケアプランは家族に送っている。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。	○			入居者の状態に変化がみられなくても、3か月に1度は評価を行いつつ見直ししている。又、体調などに変化がある場合はその都度随時に見直しを行なっている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			食事、水分摂取量、排泄の状況、暮らしの様子など個別に記録され、ケアプランへの反映に努めている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			管理日誌、申し送りノートにより確実に情報を伝え、全員のサインもある。不在者には別記して洩れのないよう意識して伝えている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			月に1度全員が参加して全体会議が開催され、課題など活発に意見交換を行い、会議記録などを回覧し不参加者への合意も図っている。又、緊急時はその都度会議を開催し、その後全員への合意に努めている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22 23	27 28	○入居者一人ひとりの尊重と職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)		○		入居者への配慮に欠けた声掛けや言葉使いなど認知症ケアへの不十分さを感じており、今後全員で勉強しなおしていきたいと管理者がしているので期待したい。	「安心とぬくもりのある共同の暮らしの提供」はグループホームとしての入居者への約束であり、職員全員で再度認識を共有し、ケアにあたっていたきたい。
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		○		昨年センター方式を取り入れ、入居者の生活歴や経験などを再度見つめ直し、より本人に合ったケアや生活支援への方策を探っている。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		○		入居者の1日の生活は概ね自分のペースで過ごしているが、一部入浴時間、食事に関しては時に職員の都合で動いていることもある。	入居者のペースを守り、変更時にも柔軟に対応するための方策について、職員同士話し合いを深め工夫していただきたい。
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)		○		月に1度の行事や外食など、なるべく全員で出掛ける機会を作り、散歩、買い物などにも声掛けして一緒に出掛けている。	
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)		○		センター方式を取り入れ、入居者一人ひとりの「できること」「できそうなこと」を再度見直しを行なっている。その上で無理のない場面作りを提供し、一緒に行なっている。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		○		契約書の中で身体拘束を行わないことを約束しており、拘束は一切行っていない。緊急時対応についての一時的な拘束についてもきちんと明示している。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)		○		日中は鍵は掛けず入居者の散歩など出入りは自由に任せている。事務室から両ユニットの出入りの状況を見守り、必要な場合は一緒に出掛けるようにしている。	
介護の基本の実行 7項目中 計			5	2	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○ 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			茶碗、湯呑み、箸など入居者の使い慣れ馴染んだ物を使用している。一部にメラミン材質のホームのものも使われているが、今後陶器に買い換えていきたいとしている。	
31	44	○ 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			入居者の身体、嚥下機能の状態に合わせて、調理方法、盛り付けにも工夫し提供している。	
32	45	○ 個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			本部の栄養士から献立表が送られてきている。献立は必ずしもその通りではなく入居者の希望で変更もしている。個人チェック表により摂取量を把握しカロリーなども把握できている。	
33	47	○ 食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。		○		リーダーと一緒に食事をすることもあるが、職員が同じ食事を一緒に楽しむ姿は少ない。入居者の傍に居てさりげないサポートは行なっている。	職員の金銭的な負担もあるだろうが、グループホームの特性を考え、同じ食事を楽しむことの支援に努めて頂きたい。職員と相談しつつ業務改善をしていくとされているので期待したい。
		2) 排泄					
34 35	48 50	○ 排泄パターンに応じた個別の排泄支援と排泄時の不安や羞恥心等への配慮 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っており、排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			身体状況や水分の摂取量も把握し、チェック表により排泄パターンにも配慮しながら誘導を行ない、トイレでの排泄を支援している。車いすの入居者にとって広さが充分でないトイレ部分もあり、今後工夫すると話されている。	
		3) 入浴					
36	53	○ 入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			毎日の入浴、2～3日おきと一人ひとりの希望に合わせて、くつろぎのある入浴への支援をしている。拒む方もいるがスタッフを変えて声掛けしたり、時間をずらしたり工夫している。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髟、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			入居者に整容の乱れや汚れはみられない。昼食時も他の入居者に配慮しながらさりげなく声掛け、食べこぼしなどへのケアを行なっている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			チェック表を使って睡眠パターンを把握し、不眠傾向のみられる入居者には日中の活動を促がしている。時には居室で寝付けず、職員の気配を感じながら和室で休む方もいる。	
日常生活行為の支援 8項目中 計			7	1	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			金銭管理について、家族から書面で依頼書を出してもらい、小遣いも含めて立替え、管理帳での出納管理を行なっている。現在8名が自己管理している。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			郵便物の取り入れ、洗濯物をたたむ、食器拭き、盛り付け、掃除など自然に役割分担ができそれらを行なっている。一人ひとりの体調もみながら、無理なく出番を見出せるよう支援している。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)	○			月に2回看護師が訪問し入居者の健康面、精神面の状態把握とチェックを行ない、職員の相談にも当たっている。医療機関との連携も良好で昨年は2名の入居者の看取りも行った。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			入院時に見舞うことは勿論、本人、家族の希望を取り次ぎ、ソーシャルワーカー、医療関係者とよく話し合い、早期退院に向けて支援している。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。		○		日常的な受診支援はそれぞれに行なっているものの、定期的な健康診断はできていない。	老人保健制度による地域での基本健診種目受診に向けて、家族とも相談し取り組んでいただき、入居者に心身の負担の少ない早期発見、早期治療を心掛けていただきたい。

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			嚥下機能の低下にも配慮し、体操をしたり、散歩や買物調理手伝い、楽しみごとなど日頃の生活行為の中で、自然に維持向上するように取り組んでいる。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			大きいトラブルは殆どなく、入居者の行為、言葉から気配を察知し、話題を変えるなど支援している。食事時の席の配置も相性に配慮し誘導している。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			毎食後歯磨きへの支援、点検を行っている。昼食後に入居者がコップと歯ブラシを持って洗面所に向かわれていた。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			日常的に病院への受診付き添いは職員が行っており、薬は薬局で一人ひとり一包にしてもらい、担当職員が確認し服用への支援を行っている。服用後の入居者の症状の変化にも注意している。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			救急救命訓練は全職員が受講しており、一般的な応急手当は行なうことができる。今後も継続して訓練、実習を重ね自信につなげていただきたい。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症マニュアルはあり、それらに従って実施している。定期的に区担当課への感染状況報告も行っている。今期インフルエンザの予防接種は職員を含め全員が実施した。	
医療・健康支援 9項目中 計			8	1	0		

項目番号		項目	できている	改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			毎日の食材準備で商店に出掛ける時は希望者に声掛けし、一緒に買物を楽しんでもらったり、草むしり、園芸、散歩など、又、催事の際に市民センターに出かけている。今年から町内会行事への参加もしていくと管理者は話している。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族が訪問した時は職員は歓迎し、お茶などでもてなしたり、テーブルを貸し出したりして居室でゆっくりと居心地よく過ごせるよう支援している。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			月に2回管理者は仙台支店での会議に出席し、法人と打ち合わせ、それぞれの課題についても話し合っている。又、支援担当員とは日常的に指導、援助してもらえる体制があり、グループホームの質の向上に共に取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			日常的に現場職員からの声をリーダーは聞いており、それらを運営面などでも反映できるように中間役としてとりまとめ、日頃から上司に伝えている。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者のペースに合った支援ができています。行事を企画し出掛ける時は工夫もしている。病院への受診の付き添いを殆ど職員が行なっているが、ボランティア、家族にも協力をお願いするなど工夫していただきたい。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			新人研修、リーダー研修など、段階に応じて受講が自社内で行なわれている。外部研修への職員の希望もあるので、今後取り組みに努力していきたいと話されている。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			飲み会など親睦会へ参加したり、管理者が積極的に悩みを聞き取り、日常的に相談にも応じている。今後より一層視野を広めるために、外部者と接する機会があれば尚よい。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			入居前に書類の確認や本人、家族と面談しその意向、希望などは十分に聞き、職員の意見も聞き、入居の可否を一次判断し、その後入居者判定会で決定している。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退居の条件は契約書に明記してあり、本人、家族と十分話し合い納得の上行なっている。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			マニュアルがあり、それに従って清潔、衛生の保持に努めている。調理場の戸棚わきにノートが吊るしてあり、布巾、まな板などの消毒の実施状況等が記してあり、定期的な点検も行なわれている。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬、洗剤、消毒剤、刃物など場所を決め、使用後鍵を掛ける等して保管しているが、一部洗面台下部に消毒薬品が入っていたので、入居者の手の届かない所に保管するなど、更にきめ細かく管理を実施していただきたい。	
62 ①	115	○緊急時の対応の周知・訓練 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明、災害等の緊急事態の対応策のマニュアルがあり、すべての職員が内容を熟知し、災害時の訓練を実施している。	○			緊急時対応マニュアルがあり、職員は夜間にもそれらの手順に沿って対応できている。入居者と一緒に避難訓練等も行なっているが、今後夜間想定しての訓練も継続して重ねていただきたい。	
62 ②	119	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)	○			トラブル報告書が作成され綴ってあり、これらの報告は支店、本社にも行なっている。発生した時は事後速やかに全職員への周知に努め、改善策を話し合い再発防止につなげている。	
内部の運営体制 11項目中 計			11	0	0		
		6.相談・苦情への対応					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			ホーム窓口、コムスンセンター、行政機関など、電話番号を付して明示し、入居者、家族に利用への説明と促がしを行なっている。	
情報・相談・苦情 1項目中 計			1	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7. ホームと家族との交流							
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族が訪問された時は入居者の日頃の暮らしの様子を伝え、ご家族の相談などをよく聞き、意見の引き出しに努めている。又、訪問しにくい遠方の家族には定期的に手紙など出し積極的に連絡をとっている。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)		○		ホーム独自の「たより」などの発行には取り組めていないので、行事での写真を見てもらうなどしているが、少し不十分である。	入居者の日頃の暮らしぶりや様子を定期的な新聞、便りに載せるなど、情報提供への取り組みに工夫していただき、又、面会時には家族に積極的に話しかけ、ふだんの様子を伝えて頂きたい。
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			金銭は預かるのではなく、希望者に対する立て替え方式で支援している。金銭管理帳で出納を明らかにし、面会時に内容を確認してもらっている。面会に来られない家族には定期的に領収書も添えて郵送している。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			2	1	0		
8. ホームと地域との交流							
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		ホームから区担当者への働きかけは、現在少し不足している。運営推進会議も開催しているが、関係者への取り組みに不十分な点がある。	ホームへの理解、協力支援も含め、積極的に情報提供し、指導も受けながら市町村事業の受託も行っていけるよう努めて頂きたい。
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		グループホームとして地域の方達に認知してもらってはいるが、新興住宅地で住民も若い世代が多いこともあり、積極的な交流はこれからである。	緊急時、災害時お互いに頼り、手助けもし合える地域の社会資源として、1日も早く住民の方々に認めてもらえるよう努力して頂きたい。
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			警察、消防などへの働き掛けは行っており、理解、協力もいただいている。食材等の買い物を通して、地域商店にも入居者の顔を見知ってもらい、協力ももらっている。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			地域の方には日頃から挨拶を交し、まだ多くはないがボランティア、実習生なども受け入れている。入居者のケアに配慮し徐々に地域への開放にも努めている。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			2	2	0		